

松山東雲短大 ○伊藤裕子 松浦千代子 清田美鈴 那須野昭文
(株)クラレ 山口新司

目的；手織布には，機械で製織された織布にみられない独特の味があると言われる。しかし手織布の物性，風合いなどに関する研究はあまりみられない。本報では，製織条件（糸の番手，歳の羽数）を変化し製織した羊毛手織布（平織）について，製織条件による力学特性・風合い値がどのように変化するかを検討した。

方法；試料はオ1報と同様である。手織布は一般に仕上げ加工剤を用いない場合が多いと思われるので，仕上げはオ1報と同様に行い，比較的生機に近い状態で測定に用いた。力学特性はKES-Fシステム¹⁾を用い，引張り特性，曲げ特性，表面特性，せん断特性，形態特性を測定した。それらの特性値より変換式を用い風合い値を算出²⁾した。

結果；用いた糸の番手が小さい程，引張り，圧縮，曲げ，せん断などの変形に対し抵抗が大きく，表面摩擦係数，表面粗さも大きい傾向があった。糸密度の違いによる力学特性・風合い値は，緯糸の打ち込みが多い程，引張り，圧縮，曲げ，せん断などの変形に対し抵抗が大きく，布の「こし」が大きい傾向にあった。布のたて方向，よこ方向の差は，本報における製織条件の範囲内では，ほとんどの試料が経糸曲がり構造となるため，その構造の影響によるものと思われる。

1)川端孝雄，織学誌 30, 341 (1972)

2)川端孝雄，風合い評価の標準化と解析，日本機械学会